



トピックス

「いわきの農業～伝統農産物を次世代へ～」

総合図書館では、平成22年12月1日(水)から平成23年1月30日(日)までの2ヶ月間、企画展「いわきの農業～伝統農産物を次世代へ～」を開催しています。



この企画展では、農業振興課が平成22年度から、伝統農産物の種や栽培方法の継承を目的として実施している「伝統農産物アーカイブ事業」に着目しており、その事業及びいわきの伝統農産物を紹介しています。

いわきの農業の歴史と伝統農産物との関わりに触れ、いわきの農業に関心を持っていただけるよう、関連した図書資料も展示していますので、ぜひお立ち寄りください！



期間 平成22年12月1日(水)～
平成23年1月30日(日)
(12月27日、1月1日は休館日)
会場 ラトブ内総合図書館
(5階企画展示コーナー)

内容
・伝統農産物アーカイブ事業の解説
・いわきの伝統農産物の紹介
・関連図書資料の展示

編集委員

三戸 進 渡邊 一雄
遠藤 靖 鯨岡 千春 草野城太郎

農業委員会ホームページ いわき市HP (<http://www.city.iwaki.fukushima.jp>) 内〔各課のページ_農業委員会〕よりご覧いただけます

地区だより
《西部地区》
(小川・川前)
草野城太郎委員



子どもたちの未来へ「田んぼでワールドカップ」

ピピーツ！ゴール！

田んぼの中から聞こえる笛の音と歓声。それは何とも変わった光景であり、道を走る車もみな止まり、田んぼに見入っています。

平成22年11月13日(土)に、JAいわき市青年連盟(以下農青連)主催の「田んぼでワールドカップ」が小川のは場で開催されました。このイベントは、地域の子どもたちに、毎日食べているお米を作る田んぼで遊ぶことで、農業に親しみを感ずてもらい、自然を守る重要性和農業の必要性を認識してもらうことを目的としています。

当日は時折冷たい風が吹きつも、冬の晴れ間が広がる穏やかな日でした。今回は、小川、好間から3チーム27人の子どもたちが参加しました。農青連の草野委員長との挨拶と、JAいわき市の赤塚代表理事理事長の祝辞の後には、地元小学生

による選手宣誓が行われました。その後念入りに準備体操を行い、子どもたちは田んぼへと足を踏み入れます。

競技は、オフサイドもとらない特別ルールを用い、グラウンドとなる田んぼには稲刈り後の切り株がゴロゴロ。鉄パイプで作った手作りのゴールも置かれ、和気あいあいとした雰囲気の中で試合が始まりました。最初は、いくらボールを蹴っても稲株に引っかかり、前に進めず苦労をしているようでした。しかし、慣れてくると上手にパスを回して点を入れる子どもたちも出てきました。

後半には農青連チームも参加し、子ども対大人の試合もありましたが、子どもたちの体力には敵うは



ずもありません。

結果、農青連チームは三戦三敗と、見事な負けっぷりでした。優勝したのは、好間の大利ファイターズで、表彰式の後には用意していた豚汁と五目ごはんをご馳走になりました。解散となりました。

農業に触れ合う機会が少なくなりつつある昨今、各団体が試行錯誤を繰り返して、イベント開催に取り組む姿勢は、今後の地域活性化と農業の持続に大きく貢献するものと思われます。今後も、「元氣農業」を発信し、多くの子どもたちが農業に興味を示してくれることを期待しています。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。私達編集委員も、3回目の新年を迎えました。今年の7月には農業委員改選を控えており、農業委員会だよりの発行も残すところ、あと2回となりました。最後まで、読みやすく、分かりやすく、親しみのある紙面づくりを目指し、編集委員一同頑張りますので、引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。

さて、昨年は猛暑による野菜不足問題が各地で見られ、それによる野菜の高騰が冬まで続きました。また、TPPへの参加問題など、農業を取り巻く環境は、日々大きく変化しております。今後の農業情勢に敵しさを感ずる今、地区だよりで登場した子どもたちの中から、「プロの「農業選手」が生まれるのを期待したいものです。

(執筆 草野 城太郎委員)

